



2026 年 1 月 26 日

関係各位

株式会社スリー・ディー・マトリックス

英国における POPS (Prospective Observational PuraStat Study) 論文掲載のお知らせ

株式会社スリー・ディー・マトリックス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岡田淳、以下「当社」）は、英国において実施した大規模臨床研究である POPS（Prospective Observational PuraStat Study）に関する論文が、消化器内視鏡分野の査読付き専門誌 Frontline Gastroenterology に掲載されたことをお知らせいたします。当社は本研究の掲載を重要なマイルストーンと位置付けており、今後の全世界での事業展開にあたり最大限活用して参ります。

本研究は、欧州内視鏡学会（European Society of Gastrointestinal Endoscopy）の全研究の責任者を歴任した上で現在は同組織のボードメンバーを務め、かつ、英国消化器内科学会（British Society of Gastroenterology）のヴァイス・プレジデントとしてボードメンバーを務める、国際的 KOL である英国ポーツマス大学 Pradeep Bhandari 教授主導のもと、10施設の英国中核病院にて約2年半に渡り実施された多施設前向き単群観察研究です。

術中の出血や合併症リスクが高いとされる内視鏡的粘膜切除術（EMR）および内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を対象とし、術中出血に対する止血効果ならびに遅発性出血予防における PuraStat の有効性と安全性を評価しました。

本研究では、448症例のうち、EMR/ESDにおける術中出血105件を解析しました。このうち、PuraStatを一次止血として使用した64件における止血成功率は92.2%でした。

また、448症例のすべてにおいて、EMR/ESD後の粘膜切除面に PuraStat を予防的に塗布したところ、遅発性出血率は全体で1.34%にとどまり、従来報告されている遅発性出血率と比較して低い水準であることが示されました。部位別では十二指腸では46例中4例、右側結腸では111例中2例の遅発性出血が認められましたが、食道（91例）、胃（59例）、左側結腸（141例）ではいずれも遅発性出血は0例でした。著者らは、PuraStat は特に右側結腸や十二指腸など出血リスクが高く、クリップ処置が技術的に困難な症例において、遅発性出血予防の有力な選択肢の一つとなり得る可

能性を示したと結論づけています。

本研究成果は PuraStat が予防的に塗布された際の特有な効果を確認するエビデンスを改めて示すものです。この効果がピュアスタットの主な導入市場である米国、欧州を始めとした世界中の消化器内視鏡医に広く認知されることで、消化器内視鏡治療における PuraStat の適切な臨床的位置づけにおよび有効な活用がさらに促進され、患者様の安全性向上ならびに医療現場における負担軽減に寄与することが期待されます。それに伴って PuraStat のユーザー層のさらなる拡大や使用量のさらなる増大に貢献する可能性があります。

【重要なお知らせ】

本リリースに記載された研究結果は、英国における観察研究に基づく学術的情報であり、日本国内におけるピュアスタット®の承認された効能・効果、使用目的、使用方法を示すものではありません。日本国内での使用にあたっては、必ず最新の添付文書および承認内容をご確認ください。

以 上

本件に関するお問い合わせ先
株式会社スリー・ディー・マトリックス
管理部 Tel : 03 - 3511 - 3440（代表）